

相聞

歎きはよしやつきずとも
君につたへむすべもがな
越のやまかぜふき晴るる
あまつそらには雲もなし

また立ちかへる水無月の
欺きを誰にかたるべき
沙羅のみづ枝に花さけば
かなしき人の目ぞ見ゆる

芥川龍之介

そうもん
あいきこへ

タレ
瑞枝
愛しき



かの人と出逢った水無月がまた廻りくる この想いを誰に如何に伝えたらよいのだろう
夏椿が枝先にほの白く輝いている ほらあの人の涼やかな眼差しがそこにあるようだ